

令和2年度

# 授業改善推進プラン



文京区立本郷台中学校

# 令和2年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

## 第1学年

教科	① 基本方針・指導の在り方	② 生徒の現状・指導上の課題分析	③ 授業改善の視点	④ 授業改善の具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。</li> <li>○課題や小テスト等を実施し、目標をもって取り組ませ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○席書会や百人一首大会などを通して日本の伝統文化に触れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業アンケートの結果から、9割超の生徒が授業に意欲的に取り組んでいるが「授業スピードが速い。」と答えた生徒が若干名見られることがわかった。</li> <li>○区学力調査の結果から、どの観点も区の平均と同程度か上回っており、全体的に能力が高いことがわかった。「関心・意欲」と「話す・聞く」の観点が区の平均より1ポイント程度下回っているので改善の余地がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの生徒にも理解できる授業のスピードを心がける。</li> <li>○「関心・意欲」を高め、「話す・聞く」の観点の能力をさらに向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての生徒が理解できている授業のスピードか、観察や小テストなどで確認し、基礎学力の定着を図る。苦手な分野については繰り返し指導し、生徒が安心して授業を受けられるようにする。</li> <li>○ビブリオバトルやディベートなど生徒が主体的に取り組む「話す・聞く」活動を推進し、「関心・意欲」を高める。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着を図るために、定期的に小テストを実施する。</li> <li>○提出物に定期的に取り組ませることで、家庭学習を促す。</li> <li>○思考力・判断力・表現力を向上させるため、少人数によるグループワークや主体的な調べ学習、発表を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小テストに対して、生徒は意欲的に取り組んでいる。指導上の課題は「振り返り」の強化・充実である。</li> <li>○授業アンケートの結果から、課題やプリントへの取り組みは95%以上の生徒ができていて答えている。指導上の課題は、これらを100%にすること、質の向上である。</li> <li>○授業アンケートの結果から、授業に意欲的に取り組んでいると実感している生徒が約75%と少ないのは、指導上の大きな課題である。</li> <li>○区の学力調査の結果から、資料と知識を結びつけるような問題が苦手である傾向があり、その改善が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○解説や振り返りをさらに充実させていき、得点ではなく、間違えた内容に意識を向けさせる必要がある。</li> <li>○課題への取り組みに問題がある生徒に対して細かいアプローチをする必要がある。また、提出物に加え、自主的に学習したいと思う生徒が手持ち無沙汰にならないような工夫も必要である。</li> <li>○生徒主体で取り組む活動を、感染症予防対策に留意しつつ増やし、「意欲的に取り組んでいる」と実感できるようにする必要がある。</li> <li>○アクティブボードやプリントを活用し、資料の読み取りをより充実させることで、思考力・判断力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業内の解説だけでなく、解説プリントの配布、定期考査におけるテスト直し（自己分析）等を充実させていく。</li> <li>○提出必須の課題について、提出できていない・内容が不十分な生徒に対して、休み時間等を使って個別に指導する。また、提出課題ではない「単元復習問題集」「補助知識プリント」等を配布し、生徒が家庭等で学習できるものを提供する。</li> <li>○グループワークなど、生徒が楽しみながら主体的で意欲的に活動できる場を増やしていく。また、調べ学習や発表の機会を増やす。</li> <li>○資料に加え、地図や産物など、内容で扱う題材の実物をできるだけ準備し、生徒がより具体的なイメージをもった上で学習できるように工夫・準備する。</li> </ul>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">数 学</p>	<p>○習熟度に応じた授業を実践する。 (基礎) 例題を選別し、基礎基本の徹底を図る。 (発展) 応用問題へのチャレンジを適宜行い、数学的な見方や考え方を重点的に養う。 ※3展開のときは、生徒の学習理解度に応じて、基礎2クラス発展1クラス等振り分ける。 (共通) 毎時間、多くの生徒に発問し、生徒の理解度を測り、言語活動の充実を図る。授業ノート以外に、試験後のレポートを課し、途中式や考え方をきちんと書かせ、根拠を明確にして解く習慣をつける。 ○単元に応じて、課題解決型学習を取り入れる。</p>	<p>&lt;区の学力調査結果から&gt; ○基本的な四則計算の正答率は高いが、文章が表している計算式を選ぶのが苦手である。(正答率 58%) 反比例を表している数量の関係を適切に選ぶことができていない。(正答率 48%) グラフから適切な情報を読み取り、その根拠を説明する力が弱い。(正答率 37%) &lt;授業及びアンケートから&gt; ○計算は、演習量を増やし、比較的すらすら解けるが、根拠を述べて説明する力が弱い。 ○課題にきちんと取り組み、授業中、意欲的に取り組む生徒の割合が 80%以上である。継続し、さらに伸ばしていきたい。</p>	<p>○グラフから必要な情報を読みとる練習を行う。また、グラフを利用して課題解決型学習を行い、数学の有用性を実感させる。 学力調査結果から、苦手傾向にある単元のフォローアップを図る。 ○計算、文章題に関わらず、言語活動の充実を図る。 ○課題解決型学習の教材を適宜準備し、数学への興味・関心をさらに高める。</p>	<p>○比例・反比例で、グラフから読み取れる情報をまとめたり、グラフを書いて課題を解決する良さを実感させる。 フォローアップ学習用ワークシートを家庭学習に課し、弱点の克服、理解の定着を図る。また、授業でも正答率の低い問題を紹介し、振り返る時間をとる。 ○途中式や考え方を書かせることに加えて、発表する時間を増やし、言語活動の充実を図る。 ○文字式、関数の単元で、課題解決型の題材を用意し、数学を使って課題を解決する良さを実感させる。</p>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">理 科</p>	<p>○生徒のさらなる興味・関心を喚起する。 ○実験・観察を実施し、高度な技能を身に付けるとともに、レポート等を活用し科学的な思考力・判断力・表現力を高める。 ○既習事項を活用しながら科学的な見方や考え方を養う課題を設定し、話し合いや発表など、生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。 ○OPPA (ワンページポートフォリオ) を活用して、課題に対する自らの学習を振り返る時間を確保することで、自らの学習を調整する力を育てる。 ○単元ごとの小テストで基礎・基本の学習の定着を図るとともに、入試問題を取り入れた小テストで学力の向上を図る。</p>	<p>○区の学力調査では、いずれの分野でも高い達成率を示した。「自ら進んで挙手、発言、準備や活動等に、授業中意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒が 75.5%であった。 ○レポートを課題とする実験・観察を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する場面を設けている。概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。 ○話し合いや発表など言語活動に対して、ほとんどの生徒が主体的に取り組んでいるが、話し合いを進行する生徒が特定の生徒に偏りがちである。 ○OPPA の活用を通して、自らの学習を振り返る習慣がついた。また、ほとんどの生徒が「学び取ろう」という意欲をもって授業に取り組んでいる。 ○毎回の授業冒頭に5問テストを実施し、基本的な知識の定着を図っている。全体的に基礎・基本の定着は概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。</p>	<p>○学習に取り組む姿勢の指導を行いたい。科学的に思考しながら課題を解決する充実感を味わえる授業を実施していく。 ○グラフや表の処理、科学的な表現方法の定着の度合いは、生徒ごとに違いがある。生徒の定着度に応じた指導の充実が必要である。 ○話し合いの進め方の指導を充実させる。また、すべての生徒が、主体的に取り組む知的好奇心を満たす課題にするために、既習事項を活用できる課題を設定する。 ○学んだことで新たに生じた疑問点を自ら見いだす力を育成する。 ○基本的な知識の定着が不十分な部分の定着を促し、思考力・判断力・表現力の土台をつくる。</p>	<p>○主体的に学習に取り組む態度に関するルーブリックを示し、学習に主体的に取り組む姿勢を共通理解する。科学的な思考力が育成できるように、知的好奇心を満たす課題を設定する。 ○レポートの評価に関するルーブリックを活用して指導を行い、生徒自身の学びに対する自己調整能力の育成を図る。定着が不十分な生徒に対しては、理科支援員と連携しながら指導・支援を行う。 ○司会・記録・発表者など役割を分担した話し合いの進め方を指導し、役割をローテーションさせることで、すべての生徒が話し合いに参加できる環境をつくる。また、単元ごとに既習事項を活用して課題解決に取り組める課題を設定する。 ○OPPA を活用し、学んだことをまとめることに加えて、学んだことで新たに生じた疑問を記入させることで、疑問点を自ら見いだす力の育成を図る。 ○定着が不十分な問題は複数回5問テストとして出題し、基本的な知識の定着を図る。</p>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語で発表、やりとりすることへ関心を高める。</li> <li>○語句や文を英語らしい音で発話する方法を身に付けさせる。</li> <li>○音読や基礎的な学習活動を通して、語句や文が表す意味や構造を理解させる。</li> <li>○4技能（聞く、話す、読む、書く）の基礎力を伸ばせるように、様々な言語活動を経験させる。</li> <li>○音読筆写、語句の復習を中心に、授業と家庭学習を関連させ、学習習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単文でのやりとりは容易に取り組むことができる。もう1文付加して応答することが課題である。</li> <li>○注意を促せば英語らしい音で発音するが、f, v, th, w等の音は母語の影響が強い。</li> <li>○語句や文構造について表面的な理解に留まる学習者が多く、訳語＝意味理解と誤解する傾向がある。</li> <li>○語句や文構造を理解していても、4技能の活動で活用することが容易ではない。</li> <li>○80%以上が毎回の授業の宿題を、次時まで学習しているが、音読など音声面の練習は不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語でのやりとりにおいて応答の後に、関連するもう1文を付加することができるようにする。</li> <li>○発音する時に日本語にない音を意識させる。</li> <li>○語句の本来の意味、読み取り、聞き取りにおける文の前後関係に注意させる。</li> <li>○新しく学習する文を口頭で練習し、文構造に慣れさせる。</li> <li>○家庭学習において、教科書本文の音声聞かせ、音読活動につなげさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Q&amp;Aシートを使って、やりとりの練習をしながら、もう1文付加させる方法を学習する。</li> <li>○单元ごとに重点的に練習する発音を決めて、音読やスピーキング活動の前に練習させる</li> <li>○本文の解説において、語句や文の意味を類推させる活動を設定する。</li> <li>○話す活動の前に、目標となる新しい文を口頭で十分に練習させる。</li> <li>○音声CDの活用した音読筆写、家族に音読を聞いてもらうなど、学習方法を提示して、毎授業で学習状況を点検する。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パートリーダーの育成を図ることや、グループ・ペア活動を通して、主体的な学習ができるようにする。</li> <li>○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する。</li> <li>○合唱コンクールなどの行事や授業内発表など、一つ一つの学習項目に目標をもたせ、達成感を得られるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱、鑑賞、創作の領域では関心意欲が高い。男子は変声前の生徒が多く、男声の低音で苦勞している生徒については、女子の音域で歌うよう指導している。女子は声質の薄い生徒が多く、息をたっぷりと使う練習を必要とする。また、音符や音楽記号などの知識理解については、個人差がある。期末考査や創作、鑑賞の「紹介文」にそれが表れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発声や音楽理論などの基本的な技能の指導を行う。</li> <li>○それぞれの生徒が自分の思いや意図をもって表現ができるように曲想について考え、話し合う時間を増やす。</li> <li>○グループ学習、ペア学習を通じた主体的な学習ができるように指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学習の目標や視点を明確にする。</li> <li>○教材や教具を充実させる。(楽曲教材やAV機器、アクティブボードなど)</li> <li>○合唱指導においては、振り返りシートを使用する。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">美術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の「図画工作」と中学校の「美術」の学び方の違いの意識を高める。</li> <li>○学年を単位として集団で学ぶことを理解し授業規律を周知する。</li> <li>○授業ごとの目標設定を明確にする。</li> <li>○充実した授業展開になるよう一斉授業と個別指導のメリハリをつける。</li> <li>○一斉授業でのPC活用を積極的におこない制作時間を確保する。</li> <li>○個別指導では個々の生徒理解を深め自分らしさが表現できるよう支援する。</li> <li>○「表現」と「鑑賞」の基礎・基本を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が記入した「図画工作から美術へ」のワークシートからおおむね学び方の違いが理解できていた。</li> <li>○一部に私語が見られる。</li> <li>○生徒はおおむね目標を意識して学習に取り組んでいる。</li> <li>○一斉指導中に思いついたまま質問をする生徒がいる。</li> <li>○ICTによる資料提示には生徒の関心が高い。</li> <li>○自信をもって制作する生徒が少ない。</li> <li>○用具や道具、材料の扱い方、鑑賞の仕方、鑑賞文の記入など小学校ごとの学習の違いがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図画工作と美術の違いについて発問を工夫しながら指導する。</li> <li>○発表やグループワークで共に学ぶことから得られる達成感をもたせ授業規律の大切さに気づかせる。</li> <li>○学習計画とともに主体的な学習につながる目標を立てさせる。</li> <li>○理解しやすい一斉指導を心がけ個別指導との切り替えを伝え授業規律順守を徹底する。</li> <li>○制作手順の説明にICTを活用する。</li> <li>○個々の制作のよさに気づくよう声かけをする。</li> <li>○「表現」では制作意図、「鑑賞」では鑑賞の視点を深めるために基礎・基本を重視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートの設問を工夫する。</li> <li>○鑑賞授業や制作時間に10分間のグループワークを習慣化する。</li> <li>○学習の目的をより一層明確に伝え具体的な目標に導く。</li> <li>○質問や制作アドバイスの有無を確認し優先すべき生徒から個別指導をおこない全員に声かけする。</li> <li>○効果的な動画を多く取り入れる。</li> <li>○個別指導や一斉指導で個々の作品の良さを評価し価値つけていく。</li> <li>○模範例の提示や参考作品を提示し基礎・基本を身につけさせる。</li> </ul>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">保健体育男子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の規律（集団行動）を徹底し、安全に配慮する。</li> <li>○運動量を十分に確保し、基礎体力・基本技能を身につける。</li> <li>○全体指導と併せて技能別での活動を取り入れ、個々の課題解決に向けて取り組ませる。</li> <li>○グループ活動で学び合い、互いのよさをみつけられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒が授業の規律を守って活動している。また、生徒授業アンケートで、「授業中意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が 94.6%だった。残りの 5.4%の個々への指導・支援が必要である。</li> <li>○基礎体力・基本技能、運動に関する知識が身につけていない生徒が多い。また、口頭での指示が理解しにくい生徒がいる。</li> <li>○生徒間で技能差があるため、全体指導と併せて技能別での活動を取り入れていく。</li> <li>○仲間に声をかけ、励ますことができる生徒が多い。1学期は、個々の課題解決を行う授業が多かったため、2学期以降グループ活動を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○整列や挨拶の徹底、ランニングや補強運動を継続的に実施することで、集団行動や体力の向上を図る。また、準備や片付けなどの用具の扱いやルールを指導し、安全に配慮させる。</li> <li>○視覚的にアプローチできるように教材を工夫し、運動に関する知識や運動技能の向上を図る。</li> <li>○全体指導で、基本技能の定着を図り、技能別活動を取り入れて、個々に合った技能の習得を目指す。</li> <li>○仲間のよさをみつけ、伝え合うことで、学習意欲の向上を図る。また、仲間のよい点を真似ることで、技能向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間、体育系の号令による整列や挨拶、声をそろえてのランニングや補強運動を継続的に実施する。各単元の始めに準備や片付けの仕方、その運動で起こりうるけが等を事前に指導する。</li> <li>○模範を示したりアクティブボード等を活用したりするなど、視覚的にアプローチして技能のポイントを説明し理解させる。</li> <li>○各単元の始めから中盤にかけては、全体指導の時間を多くとり基本技能や知識を身に付けさせ、中盤から終盤にかけては、それを活かして課題解決を行う時間を多くとる。</li> <li>○学習カードやタブレットを有効に活用させ、仲間のよさをみつけられるようにする。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">保健体育女子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動量を十分に確保し、基礎的・基本的な運動能力と体力の向上を図る。</li> <li>○個々の能力に合わせた目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。</li> <li>○グループ活動を通し、互いに関わり合う中で信頼関係を築き、共に成長していける場面を作っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒授業アンケートで「授業中意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が 91.7%いた。「あまりあてはまらない」と答えた 8.3%の生徒については、個々の指導・支援が必要である。</li> <li>○コロナ禍による運動不足もあり、体力及び基礎的・基本的な運動能力が身につけていない生徒が多い。</li> <li>○運動が得意、不得意に関わらず一生懸命に取り組む生徒が多い。また、グループ活動では、よく話し合いができている反面、受け身の生徒も見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の指導・支援が必要な生徒には、学習カード等を活用したり、実技指導中に積極的に声掛けするなどの配慮をする。</li> <li>○コロナ禍の現状を把握しながら、できる補強トレーニングを工夫し、継続的に行い体力の向上を図る。また、ソーシャルディスタンスを保ちながら運動量を確保するため、反復運動を交えながら基礎的・基本的な運動能力の定着を図る。</li> <li>○全体指導や学習カード等を活用して助言や支援を行い、意欲的に活動できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノートやカード、アクティブボードを有効に活用し、自己の課題を発見させ、解決できるよう練習方法などを助言、指導する。</li> <li>○毎時間、単元に応じて補強トレーニングや柔軟運動などを継続的に実施する。</li> <li>○授業展開の中に積極的にグループ活動を取り入れ、互いに関わり合う場面を増やしていく。</li> </ul>

# 技 術 ・ 家 庭

## <技術分野>

- 木材加工に関する技術の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。
- ポートフォリオ等を活用し、問題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を習得させる。
- 木材加工で使用する工具の取り扱い方を理解させ、安全で効率的な作業を行うように指導をする。

## <家庭分野>

- 授業の始めに復習や反復練習を必ず行い、知識・技能の確実な定着を図る。
- 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、生活の中で応用できる能力や思考力、判断力、表現力を養う。
- 習得した知識や技能を家庭生活で活かせるような課題を取り入れ、技能の向上を図る。

## <技術分野>

- 授業アンケートで「自ら進んで・授業に意欲的に・」では、あてはまる、おおむねあてはまるの合計が94.7%あったが、木材加工上の用語を習得できていない生徒がいる。
- 授業ごとに、作業記録表を記入させ、作業内容、わかったこと、理解したこと等の確認をさせているが、書き方が雑になっている生徒がいる。
- さしがね等の木材加工で使用する工具に慣れていない生徒が多い。

## <家庭分野>

- 前授業の復習を行い本授業の目標をもたせることで学習に集中し、理解できた生徒が多い
- 基礎的な知識や技能を習得できている生徒は多いが、応用力や発展した考えを求める課題に苦手意識をもつ生徒が少なくない。
- 習得した知識や技能を家庭生活で活用したり、体験して学習する機会をもととする生徒が少ない。

## <技術分野>

- 基礎的・基本的な知識、技能の定着させるために、確認テストを行う。
- 作業記録表の書き方については、わかったこと、理解したこと他に、課題にどのように取り組んだか分かるように記入させる。
- 使用する工具の仕組みと効率的で安全な使い方 の関係を理解させる。

## <家庭分野>

- 学習に興味、関心をもたせる内容を工夫し、意欲を高める指導を行う。
- 習得した知識や技能を確実に定着させ、生活の中で思考、応用、発展できる能力を育てる。
- 日常生活の中で、自ら考え判断し実践する課題を工夫し、体験学習を繰り返し行うことで基礎的な技能の向上を図る。

## <技術分野>

- 定期的に、授業の始めに用語、作業内容等に関する短時間の確認テストを行う。
- 作業記録表の他に、調べ学習のレポート、完成レポート等の課題に取り組みさせる。
- のこぎり、かんな、ベルトサンダー等の工具、機器の使用方の説明では実演に加えて、動画も利用する。

## <家庭分野>

- 単元ごとに家庭ノートやワークシートで、授業のまとめを行い知識、技能の定着を図る。
- 調べ学習や家庭での体験学習に取り組み、その結果を発表し合い、いろいろな考え方や発想を知ることによって相互の能力の向上を図っていく。
- 家庭生活で活用できる課題を取り入れ、裁縫や調理器具の扱い方、洗濯実習などの体験の場を増やし、基礎的知識、技能の定着と向上を図っていく。

# 令和2年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

## 第2学年

教科	⑤ 基本方針・指導の在り方	⑥ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑦ 授業改善の視点	⑧ 授業改善の具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。</li> <li>○課題や小テスト等を実施し、目標をもって取り組ませ、基礎学力の向上を図る。</li> <li>○図書館を使った調べる学習に取り組み、自らテーマを設定し、考えを深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業アンケートの結果から、9割強の生徒が授業に意欲的に取り組んでいることがわかった。</li> <li>○授業アンケートの結果から、「挙手・発言」の質問では、「あてはまる」を5割強、「おおむねあてはまる」を4割の生徒が選択している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指示などに対しては素直に取り組むが、やや受動的である。指示などがなく自ら課題を設定する場合でも、より能動的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らテーマを設定し、計画的に取り組む活動（調べる学習レポート、ビブリオバトル、スピーチ等）の機会を増やし、さらに推進する。</li> <li>○生徒が自信をもって取り組めるように、小テストや意見発表などを継続的に行い、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本を定着させるために、定期的に小テストを実施する。</li> <li>○思考力・判断力・表現力を向上させるために、少人数グループによる資料の読み取りや調べ学習、発表などを実施する。</li> <li>○定期的に提出物を課すことで、家庭学習を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業評価アンケートより、チャイム前着席など授業規律はおおむね良好である。発言などの積極性はアンケートでも「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が20%近くいることは課題でもあるが、発言をしないが意欲的にメモを取っている生徒も多い。また、授業準備の項目で「あてはまる」が74%にとどまっていることは課題で、声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ソーシャルディスタンスなどを確保したうえで少人数によるグループワークで積極的に発言できる機会を増やす。</li> <li>○授業準備への意識レベルを向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループの中での発言する生徒に偏りがある。机間指導で、様々な生徒が発言できるよう指導・助言する。</li> <li>○忘れ物がないよう、教科連絡を係に徹底させる。生徒個人の意識レベルを向上させるよう、授業中に指導する。また、小テストや提出物を増やし、準備に関する意識を向上させる機会を増やす。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度に応じた授業を実践する。（基礎）基礎・基本となる数学的な技能や、図形の性質の理解等の定着を図る。各単元末で応用問題や課題解決型学習に取り組むとともに、言語活動の充実を図る。（発展）応用問題など課題解決型学習に積極的に取り組み、解き方や考え方を説明する言語活動の充実を図る。（共通）毎時間の授業のねらいを明確にし、習熟度に応じた発問を工夫する。また、課題に対して主体的に取り組む姿勢を養い、問題解決ができる数学の楽しさを体験させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の授業アンケートで、「わかりやすく教えてくれたり、よく考えさせてくれたりしている」と回答した生徒が100%であったのに対して、「自ら挙手、発言や活動等に意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒が80%に止まっている。また、「授業のスピードが学力に合っている」と回答した生徒が94.8%で、若干名授業スピードが速いと感じている生徒がいる。</li> <li>○授業中は課題に黙々と取り組む生徒が多いが、自信の無さから発言に消極的になってしまう生徒が見られる。</li> <li>○基礎コースの生徒も計算技能は概ね定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査の間に単元テストを実施し、単元ごとに生徒の理解度を分析し、習熟度に応じて苦手な問題等に重点的に取り組み、学習方法の改善を図る。</li> <li>○応用問題や証明問題を順序立てて問題解決するための数学的思考力を育てるとともに、説明に必要な数学的な用語もしっかり身に付けさせる。</li> <li>○少人数のグループ活動や全体での発表の場を設けることで、言語活動の充実を図り、主体的に授業に取り組む姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期考査や単元テストに向けて課題を準備し、取り組ませる。また、テスト後に間違えた問題や解からなかった問題の解き直しをさせ、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>○授業の中で、既習の数学的な用語や定義等を頻繁に用いて説明することを意識させる。また、文章読解力や説明する力を育てるため、応用問題や証明問題に取り組む時間をしっかりと確保する。</li> <li>○関数や図形分野では、少人数のグループ活動を取り入れ、対話的な学習に取り組ませることで、積極的に発言しようとする意識をもたせる。</li> </ul>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">理 科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒のさらなる興味・関心を喚起する。</li> <li>○実験・観察のより高度な技能を身に付け、科学的な思考力・判断力・表現力を高める。</li> <li>○既習事項を活用しながら科学的な見方や考え方を養う課題を設定し、話し合いや発表など、生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。</li> <li>○OPPA (ワンページポートフォリオ) を活用して、課題に対する自らの学習を振り返る時間を確保することで、自らの学習を調整する力を育てる。</li> <li>○単元ごとの小テストで基礎・基本の学習の定着を図るとともに、入試問題を取り入れた小テストで学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わかりやすく教えてくれたり、よく考えさせてくれたりしている」と回答した生徒が95.5%であった。</li> <li>○単元ごとに小テストを実施し、還元している。全体的に基礎・基本の定着は概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。</li> <li>○OPPA の活用を通して、自らの学習の振り返りができるようになった。また、毎時間の授業に真剣に取り組める生徒が増えた。</li> <li>○入試演習に意欲的に取り組める生徒が多い中で、苦手意識から消極的になる生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着ができていない生徒に対する個別の支援が必要である。</li> <li>○根拠に基づいた議論を継続し、より高度な科学的な見方・考え方で課題解決に向かう力を養いたい。</li> <li>○課題に対する取組や、実験のレポート等を通して、自主的に調べる姿勢や、より豊かな表現力を身に付けさせたい。</li> <li>○入試問題等の演習課題に取り組む時間を引き続き設定し、基礎・基本の定着を図るとともに、実践的な応用力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の小テスト実施を継続する中で、間違えた問題等について課題に取り組みさせる。</li> <li>○既習事項を活用する応用レベルの演習の時間を充実させ、活用力を向上させる。</li> <li>○実験やグループ活動、演習に取り組む時間を通して、対話的な学習活動を行うことで、生徒の科学的な見方・考え方を活用しやすい授業を展開する。</li> <li>○定期考査に入試を模倣した問題を取り込み、知識理解および応用力の定着度を確かめる。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">英 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○英語らしい音で、まとまった内容の発話、やりとりができるようにする。</li> <li>○音読や基礎的な学習活動を通して、語句や表す意味、文構造を理解させる。</li> <li>○コミュニケーション活動を通して、4技能(聞く、話す、読む、書く)の基礎力を身に付けさせる。</li> <li>○教科書本文の音読筆写、文構造の復習を中心に、家庭学習を日常的に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1～2文程度のやりとりはできる。3文以上、2 turns 以上でやりとりする力を付けることが課題である。</li> <li>○音読により、意味、文構造の理解につながっている。自力で音読できるようになることが課題である。語順を中心に文構造を正しい理解が難しい学習者が見られる。</li> <li>○20～30語の英語を聞き、理解することができる。教科書以外の文章を読む力が付けることが課題である。</li> <li>○教科書本文の音読筆写とワークブックの課題を、次時までに取り組む習慣が身に付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な話題を使い、英語で発表、2文以上でやりとりする練習をする。また、必要な語彙を学習させる。</li> <li>○全体での練習から個別に音読する機会を多く設定する。スピーキング活動への橋渡しをする。また、単元末にワークシートを使って文構造の基本をくり返し学習させる。</li> <li>○教科書本文以外の30語以上の英文を読み取る力を付けさせる。</li> <li>○意味理解、音読を済ませた後、家庭学習で本文と語句を書く練習をして、次時の言語活動につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Q&amp;A シートを使い、質問、応答のレパトリーを拡充し、自力で発問できる力を身に付けさせる。英語を使うことで語彙を拡充する。</li> <li>○全体練習の後、個別の練習をくり返し、教科書本文の暗唱、関連するイラスト、写真を見て描写する活動を行う。</li> <li>○教科書以外のリーディング教材で、30語以上の英文を読み取り、さらに語彙を拡充することを目標とする。</li> <li>○授業で教科書本文の音読をくり返し行い、教科書本文、語句の音読筆写を引き続きに実施する。</li> </ul>



<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">音 楽</p>	<p>○パート練習やグループ・ペア活動において、曲にふさわしい表現を創意工夫し、全員が主体的に意欲をもって学習できるようにする。</p> <p>○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する。</p> <p>○合唱コンクールなどの行事や授業内発表などで目標をもたせ、一人一人が達成感を得られるように指導する。</p>	<p>○歌唱分野では意欲的に歌う生徒が多い。男女ともに正しい姿勢で丹田を意識した歌い方ができるよう、毎回声掛けが必要である。また、鑑賞分野においては、意欲的に取り組む生徒が多いが、中には鑑賞分野に苦手意識があり、取り組みにむらがある。「紹介文」においては、曲を理解しながら言葉で表現することができた。</p>	<p>○発声や音楽理論などの基本的な技能の指導を行う。</p> <p>○それぞれの生徒が自分の思いや意図をもって表現ができるように曲想について考え、話し合う時間を増やす。</p> <p>○グループ学習、ペア学習を通じた主体的な学習ができるように指導を行う。</p>	<p>○各学習の目標や視点を明確にする。</p> <p>○教材や教具を充実させる。(楽曲教材やAV機器、アクティブボードなど)</p> <p>○合唱指導においては、振り返りシートを使用する。</p>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">美 術</p>	<p>○授業ごとの目標設定を明確にする。</p> <p>○充実した授業展開になるよう一斉授業と個別指導のメリハリをつける。</p> <p>○一斉授業でPCの活用を積極的に起こさない生徒の制作時間を確保する。</p> <p>○表現・鑑賞活動を通じて主体的、対話的な学習の場を設定する。</p> <p>○題材によって横断的な学習に取り組むようにする。</p>	<p>○生徒は学習の目標をおおむね理解して取り組んでいる。</p> <p>○一斉指導中に思いついたまま質問をする生徒がいる。</p> <p>○ICTによる資料提示には生徒の関心が高い。</p> <p>○表現に自信をもてない生徒や鑑賞では語彙力不足で伝えきれない生徒がいる。</p> <p>○他の教科で学習した内容を美術の授業でいかせない生徒がいる。</p>	<p>○学習目標から生徒に自分の目標をたてさせ主体的な学習にする。</p> <p>○理解しやすい一斉指導を心がけ個別指導との切り替えを伝え授業規律順守を徹底する。</p> <p>○制作手順の説明にICTを活用する。</p> <p>○発表やグループ学習を通じて主体的・対話的に学ぶ機会を多く設ける。</p> <p>○関連する教科の単元を思い出させ他教科と美術科との相互の理解を深める。</p>	<p>○学習目標に「制作の進行状況」「技能」「技能」の低位目標を設け生徒自身の目標を設定させる。</p> <p>○質問や制作アドバイスの有無を確認して個別指導をおこなない全員に声かけする。</p> <p>○効果的な動画を取り入れる。</p> <p>○表現の多様性を尊重するとともに鑑賞のための語彙力を補う文例やキーワードの提示などをおこなう。</p> <p>○資料収集、提示用教材を準備し関連する単元やその内容について周知する。</p>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">保 健 体 育 男 子</p>	<p>○授業の規律(集団行動)を徹底し、安全に配慮する。</p> <p>○運動量を十分に確保し、基礎体力・基本技能の向上を図る。</p> <p>○生徒が自ら課題を見つけ、解決するための方法を考え取り組む力の向上を図る。</p> <p>○グループ活動を取り入れ、既習事項を活用し、作戦やアドバイスを互いに話し合えるよう指導していく。</p>	<p>○多くの生徒が授業の規律を守って活動している。また、生徒授業アンケートで、「授業中意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が96.9%だった。あてはまらないと答えた3.1%の指導・支援が必要である。</p> <p>○個々の基礎体力・運動技能の差が大きい。全体指導と併せて技能別での活動を取り入れていく。</p> <p>○自己の課題をみつけても、解決するための方法がわからない生徒が多い。</p> <p>○運動に関する知識が低く、具体的な指示が出せる生徒が少ない。1学期は、個々の課題解決を行う授業が多かったため、2学期以降グループ活動を増やしていく。</p>	<p>○整列や挨拶の徹底、ランニングや補強運動を継続的に実施することで、集団行動や体力の向上を図る。また、準備や片付けなどの用具の扱いやルールを指導し、安全に配慮させる。</p> <p>○全体指導で、基本技能の定着を図り、技能別活動を取り入れて、個々に合った技能の習得を目指す。</p> <p>○自己の課題に対して、既習事項を活用し、解決に向けて取り組めるようにする。</p> <p>○グループ活動を取り入れ、学び合いの中で、理解を深めさせ、技能の向上を図る。</p>	<p>○毎時間、体育係の号令による整列や挨拶、声をそろえてのランニングや補強運動を継続的に実施する。各単元の始めに準備や片付けの仕方、その運動で起こりうるけが等を事前に指導する。</p> <p>○各単元の始めから中盤にかけては、全体指導の時間を多くとり基本技能や知識を身に付けさせ、中盤から終盤にかけては、それを活かして課題解決を行う時間を多くとる。</p> <p>○模範を示したりアクティブボード等を活用したりするなど、技能のポイントを説明し理解させる。また、各技能のつまづきや改善するための練習方法など提示する。</p> <p>○学習カードやタブレットを活用させ、グループ内で具体的な課題や改善方法が出るよう各グループを巡視し、助言・指導していく。</p>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">保健 体育 女子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動量を十分に確保し、基礎的・基本的な運動能力の向上を図る。</li> <li>○個々の能力に合った学習を工夫し、意欲的に運動できる場面を増やすとともに、反復した指導を行い体力の向上を図る。</li> <li>○グループ活動を取り入れ、主体的に取り組めるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒授業アンケートで「授業中意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が88.5%いた。「あまりあてはまらない」と答えた11.5%の生徒については、個々の指導・支援が必要である。</li> <li>○コロナ禍による運動不足もあり、体力及び基礎的・基本的な運動能力が身につけていない生徒が多い。</li> <li>○元気よく活動する生徒が多いが、やや自己中心的な行動場面も多く見られる。また、グループ活動では、声を掛け合う場面も見られるが、一部の生徒に限られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の指導・支援が必要な生徒には学習カード等の活用をしたり、実技指導中に積極的に声掛けをするなどの配慮をする。</li> <li>○コロナ禍の現状を把握しながら、できる補強トレーニングを工夫し、体力の向上を図る。また、運動量を確保し、基礎的・基本的な運動能力の定着を図る。</li> <li>○グループ活動を多く取り入れて、主体的に取り組む力を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノートやカード、タブレット等を有効に活用し、自己の課題を発見させ、解決できるよう練習方法などを助言、指導する。</li> <li>○毎時間、単元に応じて補強トレーニングや柔軟運動などを継続的に実施する。</li> <li>○積極的にグループ活動を取り入れ、仲間と協力しながら達成する喜びを味わわせられるよう声掛けをしていく。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">技 術 ・ 家 庭</p>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー変換・生物育成に関する技術の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。</li> <li>○ポートフォリオ等を活用し、問題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を習得させる。</li> <li>○電気工具等の取り扱い方を理解させ、安全で効率的な作業を行うように指導をする。</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習得した知識や技能を生活の中で実践、活用できる課題を設定し、確実な定着を図る。</li> <li>○日常の家庭生活と結び付け、知識や技能を修得させるとともに思考力、判断力、表現力を養う。</li> <li>○夏休み、冬休みに調理実習の課題を設定し、調理に関する技能の定着を図る。</li> </ul>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○LEDライトの製作では、電子部品の取り付け（はんだ付け）に興味をもって取り組む生徒が多いが、部品の向きを間違えたり、はんだ付けを失敗する生徒がいた。</li> <li>Active Basicを使用したプログラミングでは、粘り強く取り組み、良い作品を作成している生徒が多い。</li> <li>○授業ごとに、作業記録表を記入させ、作業内容、わかったこと、理解したこと等の確認をさせているが、書き方が雑になっている生徒がいる。</li> <li>○はんだごてやその他の工具を使用した事故はなかった。</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○成長期と健康な体づくりには食生活がいかに大切であるかを理解し、関心、意欲をもって授業をうけている生徒が多い。</li> <li>○習得した知識を家庭での食生活に活かし、栄養を意識する生徒が増えたが、技能を活かそうとする生徒は少ない。</li> <li>○調理に興味をもっている生徒は多いが、作業経験の違いによる技能差があり、到達度に差が出てしまう。</li> </ul>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電子部品等の性質や作業内容を正しく理解させて、作業に見通しをもって取り組ませる。</li> <li>○作業記録表の書き方については、わかったこと、理解したこと他に、課題にどのように取り組んだか分かるように記入させる。</li> <li>○機器、工具の点検、調整、手入れについて十分に説明を行う。</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識、技能を確実に定着させるために、ICTを活用し、例題を数多く用いて考察させる工夫をする。</li> <li>○習得した知識や技能の定着を図り、生活の中で活かせる身近な課題に取り組み、身近な課題に取り組ませ、考察し、応用、発展できる能力を育てる。</li> <li>○家庭生活の中で体験的な学習の課題に取り組ませ、習得した知識、技能を活かす作業経験をすることで技能を向上させる。</li> </ul>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○適切に作業できるように、各部品の特徴、作品製作での注意点をわかりやすく説明できるようにワークシートを見直す。</li> <li>○作業記録表の他に、調べ学習のレポート、完成レポート等の課題に取り組ませる。</li> <li>○はんだごて、その他の機器、工具の使用前の点検、使用後の手入れ等の安全指導を継続して行う。</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用し、献立を立てる練習や動画による調理手順や作業内容を説明し、基礎的知識、技能の定着を図る。</li> <li>○身近な生活の中の課題に取り組み、その結果を家庭ノートやワークシートにまとめ発表し合うことで、互いの関心、興味を広げ、表現力を高める指導を行う。</li> <li>○食品や調理器具の扱いに慣れるために、長期休業中に食品の選択、献立の立て方、実習、考察レポートなどを取り入れていく。</li> </ul>

# 令和2年度 文京区立本郷台中学校 授業改善推進プラン

## 第3学年

教科	⑨ 基本方針・指導の在り方	⑩ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑪ 授業改善の視点	⑫ 授業改善の具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。</li> <li>○課題や小テスト等を実施し、目標をもって取り組ませ、基礎学力の向上を図る。</li> <li>○進路を見据えて、生きる力に直結する「話す力」「書く力」「読み取る力」を育む指導を重点的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業アンケートの結果から、95%以上の生徒が授業準備や課題に意欲的に取り組んでいることが分かる。しかし、授業中の発言などの積極性に関しては、10%程度「あまりあてはまらない」を選んだ生徒がいた。</li> <li>○どの単元においても文章を読む姿勢は前向きであるが、内容を理解する上で必要な語彙力がまだ足りていない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発言する機会をさらに増やし、誰でも発言しやすい授業の雰囲気を作る。</li> <li>○知らない言葉に出会った時に調べる習慣をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアワークやグループワークが可能であれば、毎回の授業で行う。難しい状況である場合は、全体の場で発言する機会を増やす。</li> <li>○新出語句や調べた言葉を復習する機会を作る。また、テストなどを定期的に行うことで、定着を図る。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着を図るため、定期的に小テストを実施する。</li> <li>○思考力・判断力・表現力を向上させるため、少人数によるグループワークや体験的学習を取り入れる。</li> <li>○社会的事象への関心と自らの意見をもたせる工夫を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業評価アンケートより、授業準備や板書の書き写しなどの項目がいずれも「あてはまる」が80%、「おおむねあてはまる」を入れて90%を超えている。発言などの積極性はアンケートでも「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が20%近くいる。しかし、発言はしないが、ほとんどの生徒がメモを取り、復習や提出物、小テストに臨むところから、授業形態と質問項目にずれがあると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ソーシャルディスタンスなどを確保したうえで少人数によるグループワークで積極的に発言できる機会を増やす。</li> <li>○思考・判断・表現を高めるために言語活動を通した「学び合い」の機会を増やす。また、感染症に対応した新たな方策も模索する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループの中での発言する生徒に偏りがある。机間指導で、様々な生徒が発言できるよう指導・助言する。</li> <li>○思考・判断・表現に課題があるので、グループワークで意見を共有する前に個人で考える時間を設ける。また、「学び合い」を促すことで学力の高い生徒の思考力も言語活動を通して高める。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度に応じた授業を実践する。 (基礎)教科書の学習事項を整理し、基礎基本の定着を図る。 (発展)積極的に入試問題や応用問題をチャレンジし、物事を数学的に考察する力を養う。 (共通)毎時間、多く発問し、数学的活動を通して、数学への興味関心を高める。</li> <li>○授業時のノート等、普段から途中式や考え方を書かせ、理由・根拠を明確にして書く訓練をさせる。</li> <li>○単元に応じて、課題解決型学習を取り入れる。数学を用いて課題解決することの楽しさを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業評価アンケートでは、「授業の進度が自分に合う」と回答した生徒が96%、「事前の準備や工夫がされ分かりやすい授業を行っている」と回答した生徒が98%おり、習熟度に応じた授業を実践できている。普段の授業では、生徒自身が考え方をノートに記録し、発言時にも理由を明確にしている。</li> <li>○教員からの発問だけでなく、生徒自身もよく考え、課題を発見し解決しようという姿勢がよく見られる。基礎基本に課題のある生徒は、課題に向き合うのを諦めてしまうのが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○答えを導くまでの過程を評価していく中で、途中式・考え方を明確に書くことのモチベーションを上げる授業を展開する。また、数学的活動を多く取り入れることを継続し、数学に対する興味関心を高める授業を展開する。</li> <li>○課題解決のために必要な基礎基本の事項の定着を継続して図る。思考力・判断力・表現力の向上を図る中で、積極的に課題解決型学習の題材を多く取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間指導する中で、ノートに途中式を書いている様子を積極的に評価する。また、各試験後の間違い直しレポートを通して、途中式や問題を解く上で必要な考え方をまとめさせる機会をつくる。</li> <li>○各授業で前回までの復習や、前回までの内容を使う演習を積極的に行い、基礎基本の定着を図る。また、各単元の応用の内容では、生徒主体で課題解決させる授業を展開する。</li> </ul>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">理 科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒のさらなる興味・関心を喚起する。</li> <li>○実験・観察のより高度な技能を身に付け、科学的な思考力・判断力・表現力を高める。</li> <li>○既習事項を活用しながら科学的な見方や考え方を養う課題を設定し、話し合いや発表など、生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。</li> <li>○OPPA（ワンページポートフォリオ）を活用して、課題に対する自らの学習を振り返る時間を確保することで、自らの学習を調整する力を育てる。</li> <li>○单元ごとの小テストで基礎・基本の学習の定着を図るとともに、入試問題を取り入れた問題演習の充実で学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自ら進んで挙手、発言、準備や活動等に、授業中意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒が 84.4%であった。</li> <li>○レポートを課題とする実験・観察を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する場面を設けている。概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。</li> <li>○話し合いや発表など言語活動に対して、ほとんどの生徒が主体的に取り組んでいるが、話し合いを進行する生徒が特定の生徒に偏りがちである。</li> <li>○OPPA の活用を通して、自らの学習を振り返る習慣がついた。また、ほとんどの生徒が「学び取ろう」という意欲をもって授業に取り組んでいる。</li> <li>○毎回の授業冒頭に 5 問テストを実施し、基本的な知識の定着を図っている。全体的に基礎・基本の定着は概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。入試問題などの応用問題に苦手意識を持つ生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習に取り組む姿勢の指導を行いたい。科学的に思考しながら課題を解決する充実感を味わえる授業を実施していく。</li> <li>○グラフや表の処理、科学的な表現方法の定着の度合いは、生徒ごとに違いがある。生徒の定着度に応じた指導の充実が必要である。</li> <li>○話し合いの進め方の指導を充実させる。また、すべての生徒が、主体的に取り組む知的好奇心を満たす課題にするために、既習事項を活用できる課題を設定する。</li> <li>○学んだことを着実に定着させたい。また、既習事項との関連に気付かせ、知識の応用力を獲得させる。</li> <li>○基本的な知識の定着が不十分な部分の定着を促すことと並行して、入試問題などの応用問題への苦手意識を取り除く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に学習に取り組む態度に関するルーブリックを示し、学習に主体的に取り組む姿勢を共通理解する。科学的な思考力が育成できるように、知的好奇心を満たす課題を設定する。</li> <li>○レポートの評価に関するルーブリックを活用して指導を行い、生徒自身の学びに対する自己調整能力の育成を図る。定着が不十分な生徒に対しては、小集団での情報共有の時間を設けることで気づきを促す。必要に応じて、個別に指導・支援を行う。</li> <li>○司会・記録・発表者など役割を分担した話し合いの進め方を指導し、役割をローテーションさせることで、すべての生徒が話し合いに参加できる環境をつくる。また、单元ごとに既習事項を活用して課題解決に取り組める課題を設定する。</li> <li>○OPPA を活用し、学んだことをまとめることに加えて、既習事項との関連を問うて応用力の育成を図る。</li> <li>○定着が不十分な問題は複数回 5 問テストとして出題し、基本的な知識の定着を図る。また、学んだ知識を活用して応用問題が解ける体験を重ねて、入試問題等応用問題への苦手意識を取り除く。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">英 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少人数習熟度別授業の利点を生かし、基礎コースは基礎力を、発展コースは、応用力を身に付けさせる。</li> <li>○教科書を中心とした音読指導を徹底し、正しい発音やイントネーション等を身に付けさせる。</li> <li>○解説プリント、小テストを中心に文法力を身に付けさせる。</li> <li>○ALT と協力してパフォーマンステストを充実させ、コミュニケーション力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両コースとも授業に意欲的に取り組み、発言が活発で、考えて答える力も身に付いてきたが、長文を読み解く力が不足している。</li> <li>○教科書の音読は一通りできるが、文の強勢や単語のアクセントがフラットになりがちな点が課題である。</li> <li>○文法力については、小問題プリントには意欲的に取り組んでいるが、既習文法が曖昧になっている生徒に対する基礎力の再構築が課題である。</li> <li>○ALT との授業では、活発にコミュニケーションを取りながら授業に臨んでいるが、受け答えで、フルセンテンスで答えることがあまりできていなかった点、改善を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長文(600語前後)を読み解く力を身につけさせる。</li> <li>○文の強勢指導、単語のアクセント指導の徹底を図り、円滑なコミュニケーション活動ができるようにさせる。</li> <li>○特に 1・2 年で習った既習文法の復習指導を徹底し基礎力を身につけさせる。</li> <li>○ALT とのコミュニケーション活動においてフルセンテンスで言葉のやり取りができるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎コースは 100 語程の長文から、発展コースは 300 語程度の長文から 50 語程度を目安に徐々に語数を増やしながら長文問題に取り組ませる。</li> <li>○相手に伝えたいところに強勢を置くこと、本文説明の際に、文の前後関係から強勢の位置を考えさせる指導を徹底する。</li> <li>○本文説明の際に新出文法同様、既習文法に関する問いを多く発問し、答えさせる。</li> <li>○コミュニケーション活動に於いて、質問に単語で答えた場合、ALT と共通理解を図り、必ずフルセンテンスで答えさせるようにさせる。</li> </ul>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">音 楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リーダーを中心としたパート練習のさらなる充実を図り、曲にふさわしい表現を創意工夫し、グループ・ペア活動では全員が主体的に思いや意図をもって学習できるようにする。</li> <li>○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する。</li> <li>○合唱コンクールや卒業行事、授業内発表などで目標をもたせ、一人一人が達成感を得られるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱分野では意欲的に歌う生徒が多い。男女ともに姿勢を改善し、響きのある声づくりを行っていく。また、鑑賞の分野では、曲の歴史や曲想に注目し、興味をもって聴くことができた。また、鑑賞分野においては、意欲的に取り組む生徒が多い。「紹介文」においても、曲を理解しながら言葉で表現することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発声や音楽理論などの基本的な技能の指導を行う。</li> <li>○それぞれの生徒が自分の思いや意図をもって表現ができるように曲想について考え、話し合う時間を増やす。</li> <li>○グループ学習、ペア学習を通じた主体的な学習ができるように指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学習の目標や視点を明確にする。</li> <li>○教材や教具を充実させる。(楽曲教材やAV機器、アクティブボードなど)</li> <li>○合唱指導においては、振り返りシートを使用する。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">美 術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○充実した授業展開になるよう一斉授業と個別指導のメリハリをつける。</li> <li>○一斉授業ではPC活用を積極的におこない生徒の制作時間を確保する。</li> <li>○表現・鑑賞活動を通じて主体的、対話的な学習の場を設定する。</li> <li>○題材によって横断的な学習に取り組むようにする。</li> <li>○生活や社会の中の美術や美術分野と豊かに関わる資質や能力を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作や作業の進度に遅れのある生徒がいる。</li> <li>○ICTによる資料提示には生徒の関心が高い。</li> <li>○表現に自信をもてない生徒や鑑賞では語彙力不足で伝えきれない生徒がいる。</li> <li>○生徒は関連する教科の単元を振り返り他教科と美術科の相互の理解を深めている。</li> <li>○授業で学ぶ美術と日常生活の中の美術との関連に気づいていない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一斉指導と個別指導の切り替えを伝え個に応じた指導で全員の生徒に対応する。</li> <li>○制作手順の説明にICTを活用する。</li> <li>○発表やグループ学習を通じて主体的・対話的に学ぶ機会を多く設ける。</li> <li>○関連する教科の単元やその内容についてより興味を深める工夫をする。</li> <li>○身近な生活の中の美術に気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作の進捗状況を個別に記録する。</li> <li>○効果的な動画を取り入れる。</li> <li>○制作途中の鑑賞会や短時間でのグループワークを繰り返し実施する。</li> <li>○他教科の関連する資料をICTを活用して提示する。</li> <li>○情報提供、資料を提示し興味関心が広がるようなワークシートを作成する。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">保 健 体 育 男 子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の規律（集団行動）を徹底し、安全に配慮する。</li> <li>○運動量を十分に確保し、体力・技能の向上を図る。</li> <li>○全体指導と併せて技能別の活動を取り入れ、個々の技能に合った課題解決ができるよう指導していく。</li> <li>○グループ活動でチームや自他の課題解決に向けて主体的に取り組み、技能向上できるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの生徒が授業の規律を守って活動している。また、生徒授業アンケートで、「授業中意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が89.3%だった。残りの10.7%の指導・支援が必要である。</li> <li>○昨年度1年間で個々の体力・技能は向上した。引き続き、運動量を十分に確保しながら、個々の課題解決に向けた授業を行う。</li> <li>○自己の課題をみつけても、解決するための方法がわからない生徒がいる。</li> <li>○互いに助言し、学び合うことができる生徒が多い。1学期は、個々の課題解決を行う授業が多かったため、2学期以降グループ活動を増やしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○整列や挨拶の徹底、ランニングや補強運動を継続的に実施することで、集団行動や体力の向上を図る。また、準備や片付けなどの用具の扱いやルールを指導し、安全に配慮させる。</li> <li>○全体指導で、技能の定着を図り、技能別活動を取り入れて、個々に合った技能の習得を目指す。</li> <li>○自己の課題に対して、既習事項を活用し、解決に向けて取り組めるようにする。</li> <li>○グループ活動を多く取り入れ、主体的に学習できるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間、体育系の号令による整列や挨拶、声をそろえてのランニングや補強運動を継続的に実施する。各単元の始めに準備や片付けの仕方、その運動で起こりうるけが等を事前に指導する。</li> <li>○個々の技能にあった場を与え、それぞれの場を巡視しながら指導を行う。</li> <li>○模範を示したりアクティブボードを活用したりするなど、技能のポイントを説明し理解させる。また、各技能のつまづきや改善するための練習方法など提示する。</li> <li>○学習カードやタブレットを活用し、自他の課題を発見させ、解決のための練習方法などを考えさせる指導を行う。</li> </ul>

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">保健 体育 女子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な運動能力と体力の向上を目指し、個々の運動時間をより多く確保する。</li> <li>○個人の能力に合わせた助言や支援を行い、意欲的に活動させる。</li> <li>○グループ活動を取り入れ、互いに助け合いながら課題解決に向けて取り組めるよう指導し、技能の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒授業アンケートで「授業中意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が90.5%いた。「あまりあてはまらない」と答えた9.5%の生徒については、個々の指導・支援が必要である。</li> <li>○コロナ禍による運動不足もあり、体力及び基礎的・基本的な運動能力が身につけていない生徒が多い。</li> <li>○運動が得意、不得意に関わらず真面目に取り組む姿勢が多く見られる。しかし、運動が苦手な生徒の中には、積極性に欠ける生徒もいる。また、グループ活動では、声を掛け合う場面も見られるが、一部の生徒に限られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の指導・支援が必要な生徒には、学習カード等を活用したり、実技指導中に積極的に声掛けするなどの配慮をする。</li> <li>○コロナ禍の現状を把握しながら、できる補強トレーニングを工夫し、体力の向上を図る。また、ソーシャルディスタンスを保ちながら運動量を確保し、基礎的・基本的な運動能力の定着を図るとともに、個々の運動技能の向上も図っていく。</li> <li>○グループ活動を通し、互いに協力して助け合いながら、運動技能の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習ノートやカード、タブレット等を活用し、自己の課題を発見させ、解決できるよう練習方法などを助言・指導し、個々に合った運動技能の向上を図っていく。</li> <li>○毎時間、単元に応じて補強トレーニングや柔軟運動などを継続的に実施する。また、個々の技能に応じた運動ができるよう助言・指導していく。</li> <li>○積極的にグループ活動を取り入れ、仲間と協力しながら達成する喜びを味わわせられるよう声掛けし、運動技能の向上を図る。</li> </ul>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">技 術 ・ 家 庭</p>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報に関する技術（プログラミング等）の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。</li> <li>○グループ学習の時間を設定し、問題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を習得させる。</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実習や体験学習を通じて、基本的な知識や技能の確実な定着を図る。</li> <li>○成長と家族と地域の学習で、支えられてきた立場から支える立場への自立と共生の力を養う。</li> <li>○保育実習を通して、習得した知識を活用し、幼児とのよりよい関わり方を考え工夫することで、思考力、判断力、表現力を養う。</li> </ul>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○順次処理、反復処理のプログラミングに関心をもって取り組む生徒が多いが、プログラミングに時間がかかってしまったり、効率的なプログラムが作成できなかったりする生徒がいる。</li> <li>○順次、反復処理、メロディー制作の課題で発見した問題を協働で解決している。</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「幼児の生活」の分野では、興味、関心をもち授業に取り組む生徒が多いが、身近に幼児と触れ合う機会をもてる生徒は少ない。</li> <li>○衣、食、住の分野を学び、家庭や地域の仕事に出来ることが増え、支える立ち場になりたいと思う生徒は多いが、その機会をもてる生徒は少ない。</li> <li>○保育実習で幼児と積極的に関わろうとする生徒が多い。日常で幼児と触れ合う機会が少ないため、実際の状況に戸惑いを見せる生徒も少なくない。</li> </ul>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○課題の答えとなるプログラムについて、わかりやすい説明を行う。</li> <li>○個人で解決する課題で学んだ順次、反復、分岐処理を使って、協働で解決する課題に取り組ませる</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児への関心、理解を深められる教材や課題を工夫する。自分の幼い頃と重ね合わせ幼児の成長を理解し、知識の定着を図る。</li> <li>○成長と共に家庭や地域の仕事に進んで参加し協力出来ることを増やし、支えられる立場から支える立場になれる知識、技能の定着を図る。</li> <li>○幼稚園を訪問し幼児との触れ合い活動を設定する。習得した知識を活かし試行錯誤する中で、思考力、判断力、表現力を高める指導を行う。</li> </ul>	<p>&lt;技術分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○プログラムの作成する作業を実際に見せ、類題を用意し取り組ませる。</li> <li>○2～7人のグループで取り組む課題と双方向性のある課題に取り組ませ、作成したプログラムをグループで検討させる。</li> </ul> <p>&lt;家庭分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTの動画などを活用し、幼児の年齢ごとの心身の発達や生活の様子を理解させ、知識の定着を図る。</li> <li>○成長を振り返ることで、家庭や地域の人々に支えられてきたことを再認識させる。家庭や地域の活動に参加し、考察した結果を家庭ノートにまとめ発表し合う活動を取り入れていく。</li> <li>○幼児のおもちゃの製作や保育実習を通して、幼児への関心や理解を深める。幼児と触れ合い試行錯誤する中で、幼児にあった遊び方や接し方を工夫する能力を育成する。</li> </ul>